

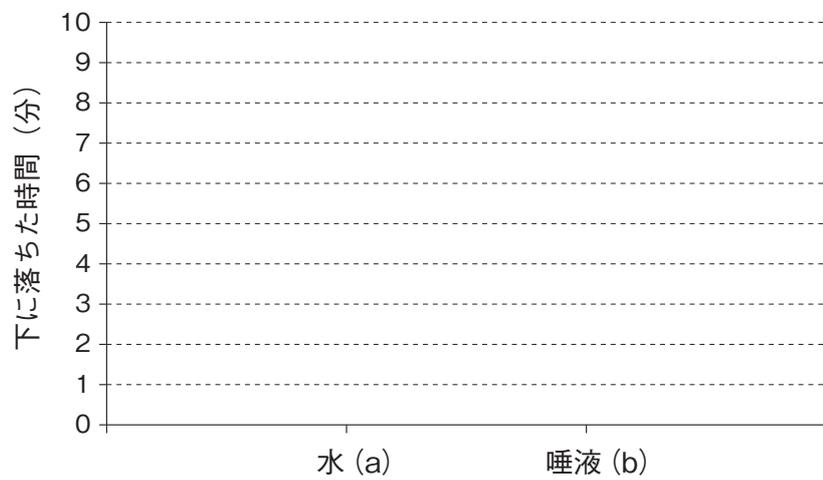
唾液の消化作用確認実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。



3. 本実習から何が考察できるか。

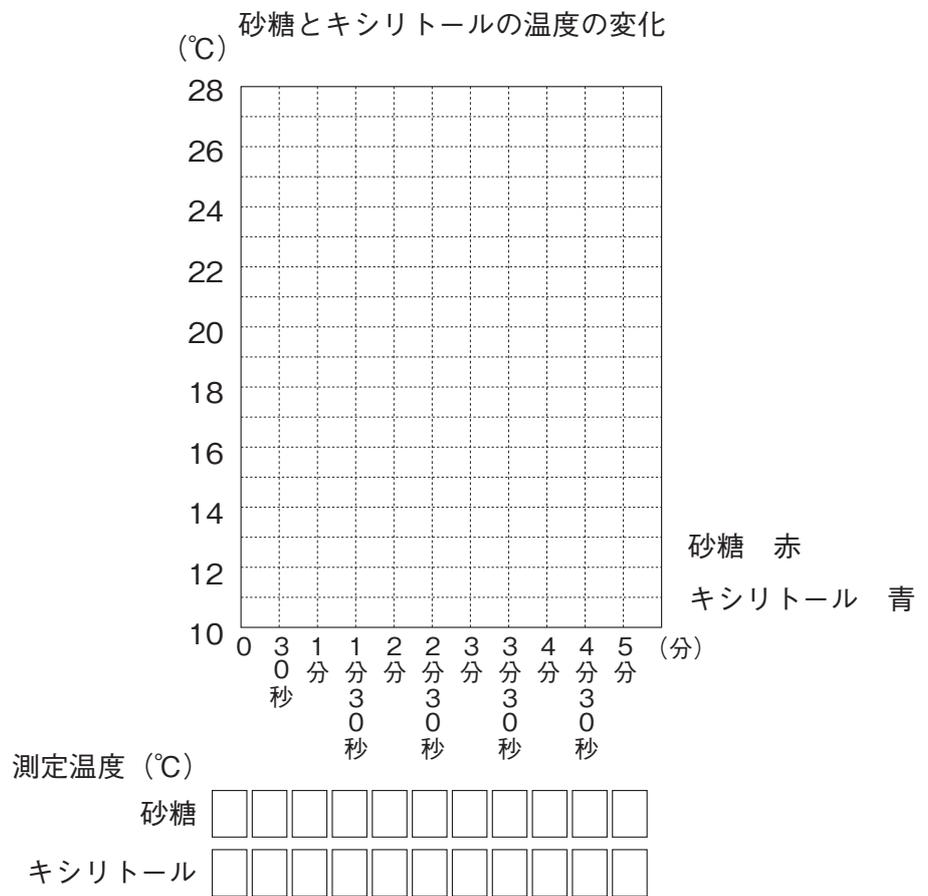
スクロースとキシリトールの理解実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。



3. 本実習から何が考察できるか。

歯の脱灰観察実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

塗った部分	塗らない部分

3. 本実習から何が考察できるか。

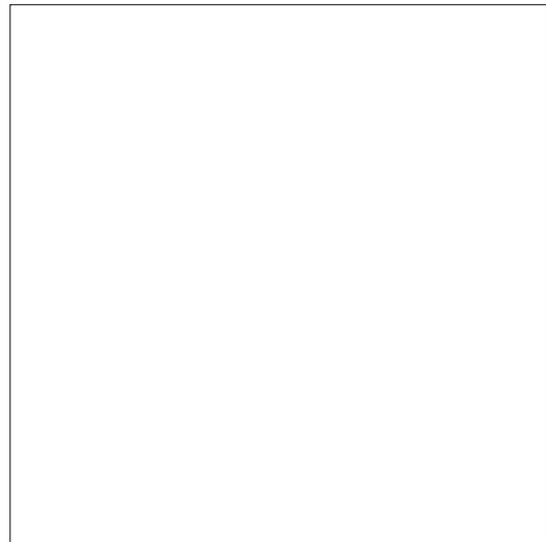
エナメル質の脱灰〔酸処理（エッチング）〕観察実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。



3. 本実習から何が考察できるか。

飲料水・お茶中のフッ化物イオン濃度測定実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

	水道水	ミネラル ウォーター	お茶 (市販品)	お茶 (急須で入れた一番茶)	その他の飲料
フッ化物イオン 濃度 (ppm)					

3. 本実習から何が考察できるか。

歯の Ca, P, Mg 測定実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい.

2. 結果を述べなさい.

	歯 (wt%)	貝殻 (wt%)
Ca		
Mg		
P		

3. 本実習から何が考察できるか.

フッ化物配合・非配合歯磨剤のフッ化物測定実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

	フッ化物配合 歯磨剤 A	フッ化物配合 歯磨剤 B	非フッ化物配合 歯磨剤 A	非フッ化物配合 歯磨剤 B	その他 ()
商品名					
フッ化物 イオン濃度 (ppm)					

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化物配合歯磨剤の製作実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい.

2. 結果を述べなさい.

3. 本実習から何が考察できるか.

フッ化物溶液・ゲル（ゼリー）の作り方（調製）実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい.

2. 結果を述べなさい.

3. 本実習から何が考察できるか.

フッ化物溶液・ゲル（ゼリー）の味の確認実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

溶 液	味
2%フッ化ナトリウム溶液	
リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液	
8%フッ化第1スズ溶液	
フッ化物ゲル（ゼリー）	

3. 本実習から何が考察できるか。

綿球・綿棒に含まれる溶液量の確認実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

【綿球・綿棒の製作, 用意】							サイン
3 mm	5 mm	7 mm	市販 5 mm	綿棒	2~3 mm		<input type="text"/>
1 mL あたり	<input type="text"/>	個	<input type="text"/>				
1 個 (本) あたり	<input type="text"/>	mL					
【悪心・嘔吐発現量の推定】							
1 歳児 (体重 10 kg)							
発現フッ化物量	<input type="text"/>	mg					サイン
溶液	<input type="text"/>	mL					<input type="text"/>
個数	<input type="text"/>	個 (本)					
3 歳児 (体重 15 kg)							
発現フッ化物量	<input type="text"/>	mg					サイン
溶液	<input type="text"/>	mL					<input type="text"/>
個数	<input type="text"/>	個 (本)					
9 歳児 (体重 30 kg)							
発現フッ化物量	<input type="text"/>	mg					サイン
溶液	<input type="text"/>	mL					<input type="text"/>
個数	<input type="text"/>	個 (本)					

[ここでフッ化物量というのはフッ化物イオン(F)量をさすものとする]

3. 本実習から何が考察できるか。

綿球中のフッ化物物の確認実習 ①

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

綿球 1 個あたり		溶液 1 mL
計算値	mg	9 mg (0.9%)
測定値	mg	mg (0.9%)

3. 本実習から何が考察できるか。

綿球中のフッ化物物の確認実習 ②

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

綿球 1 個あたりのフッ化物物量

$$\frac{A \text{ (ppm)} \times B \text{ (倍)}}{C \text{ (個)}} = \frac{\boxed{} \times \boxed{}}{\boxed{}} = \boxed{} \mu\text{g/個}$$
$$= \boxed{} \text{ mg/個}$$

A: ポナールキット-F の値 (ppm)

B: 希釈倍数

C: 綿球数

$$\frac{A \text{ (ppm)} \times B \text{ (倍)}}{C \text{ (個)} \times D \text{ (mL)}} = \frac{\boxed{} \text{ (ppm)} \times \boxed{} \text{ (倍)}}{\boxed{} \text{ (}\mu\text{g/個)} \times \boxed{} \text{ (mL)}}$$
$$= \boxed{} \mu\text{g/個} = \boxed{} \text{ mg/mL}$$

A: ⑥で測定したポナールキット-F の値 (ppm)

B: ⑤の希釈倍数 [⑤の倍数 10,100]

C: 用いた綿球数 (個)

D: 綿球 1 個に含まれる溶液量 (mL)

3. 本実習から何が考察できるか。

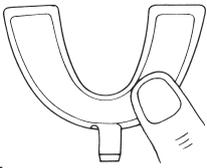
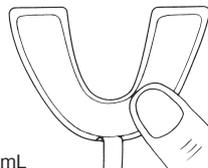
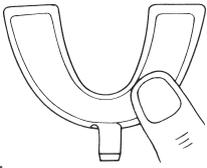
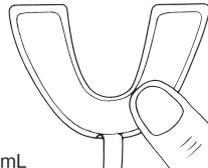
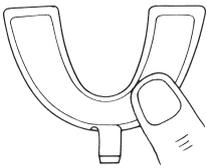
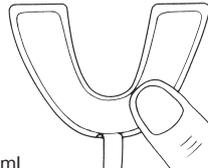
イオントレーに含まれる溶液量の確認実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

	幼児用	学童用
不足状態		
	<input type="text"/> mL	<input type="text"/> mL
至適状態		
	<input type="text"/> mL	<input type="text"/> mL
過剰状態		
	<input type="text"/> mL	<input type="text"/> mL
	3歳	9歳児
悪心嘔吐 発現量	<input type="text"/> mg	<input type="text"/> mg
溶 液	<input type="text"/> mL	<input type="text"/> mL
使用量	<input type="text"/> mL	<input type="text"/> mL

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化物歯面塗布の相互実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

術者 _____

患者 _____

(体重 kg)

塗布部位 _____

フッ化物名 _____

最大使用容量 _____ mL

ステップ	サイン			
	清 掃		コットンロール	
綿 球 コットンロール作製	1		2	
	3		4	
清 掃	右 側		左 側	
	上 顎	防湿 塗布	防湿 塗布	防湿 塗布
フッ化物歯面塗布	9	10	11	12
	下 顎	防湿 塗布	防湿 塗布	防湿 塗布
	7	8	5	6
指 示	13			

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化物ゲル（ゼリー）歯面塗布法の基礎実習（顎模型への塗布）

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化物フォーム応用時の使用量確認実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

試行回数	内 容	フッ化物ゲルの量 (g)	フッ化物量 (mg)
試行 1	薬剤の容器は 45° 以下の状態で 胴体部の中央をしっかり押して 注入する.		
試行 2	薬剤の容器は 45° 以下の状態 で胴体部の上部を軽く押してト レーへ注入する.		
試行 3	薬剤の容器を 90° に倒して トレーへ注入する.		

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化物フォーム塗布の相互実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

術式	注意事項	考察
歯面清掃	<input type="checkbox"/> プラークが可及的に除去されているか。	
トレーの試適	<input type="checkbox"/> 試適時に痛みはないか。 <input type="checkbox"/> 歯列がトレーの真ん中に入り、最後臼歯まで覆われているか。	
トレーへの薬剤の応用	<input type="checkbox"/> 薬剤の注入方法は適切か。 <input type="checkbox"/> 薬剤の注入量は適切か。	
歯面乾燥	<input type="checkbox"/> 歯面を圧搾空気です布部位の乾燥ができたか。	
トレーの装着	<input type="checkbox"/> 歯列がしっかり圧接しているか。 <input type="checkbox"/> 頬や口唇をなじませたか。 <input type="checkbox"/> 排唾管が必要に応じて使用されているか。 <input type="checkbox"/> トレー挿入中の患者の様子を把握しているか。 <input type="checkbox"/> 塗布時間は守れたか。	
トレーの除去	<input type="checkbox"/> 薬剤が垂れないように、口腔内よりトレーを外していたか。 <input type="checkbox"/> 口腔内にたまった唾液を吐かせていたか。	
塗布後の注意事項	<input type="checkbox"/> 30分間の洗口禁止と理由について伝えたか。 <input type="checkbox"/> フッ化物の限界、リコールの必要性は伝えたか。	

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化ジアンミン銀の抜去歯への塗布実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

歯面	断面

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化ジアンミン銀の手指および布への着色・脱色実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

手指に塗布 () 分後	布に塗布 (60 分後)
	布に塗布 (1 日後)

3. 本実習から何が考察できるか。

フッ化ジアンミン銀塗布相互実習

年 月 日

No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

患者： _____

術者： _____

塗布部位

—+—

	ステップ	サイン
1	歯の選択	
2	清掃	
3	ワセリン塗布	
	簡易防湿・乾燥	
4	フッ化ジアンミン銀塗布	
5	簡易防湿除去, 洗口	

3. 本実習から何が考察できるか。

酸処理面の観察実習

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

酸処理面	未処理面

3. 本実習から何が考察できるか。

小窩裂溝填塞法の相互実習（光重合型小窩裂溝填塞材）

____年 ____月 ____日

No. _____ Name _____

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 結果を述べなさい。

3. 本実習から何が考察できるか。

ダイアグノデント測定実習

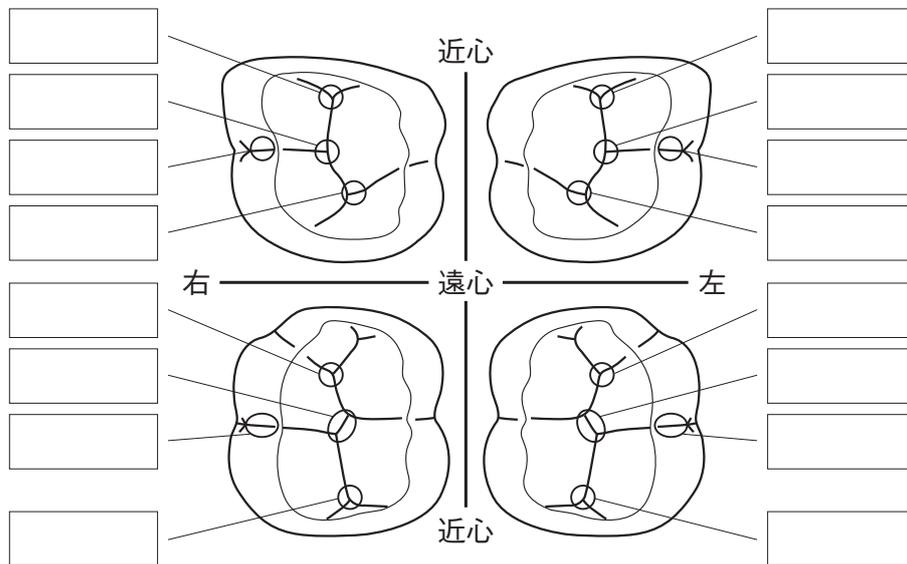
年 月 日

測定者 No. Name

患者 No. Name

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 測定結果.

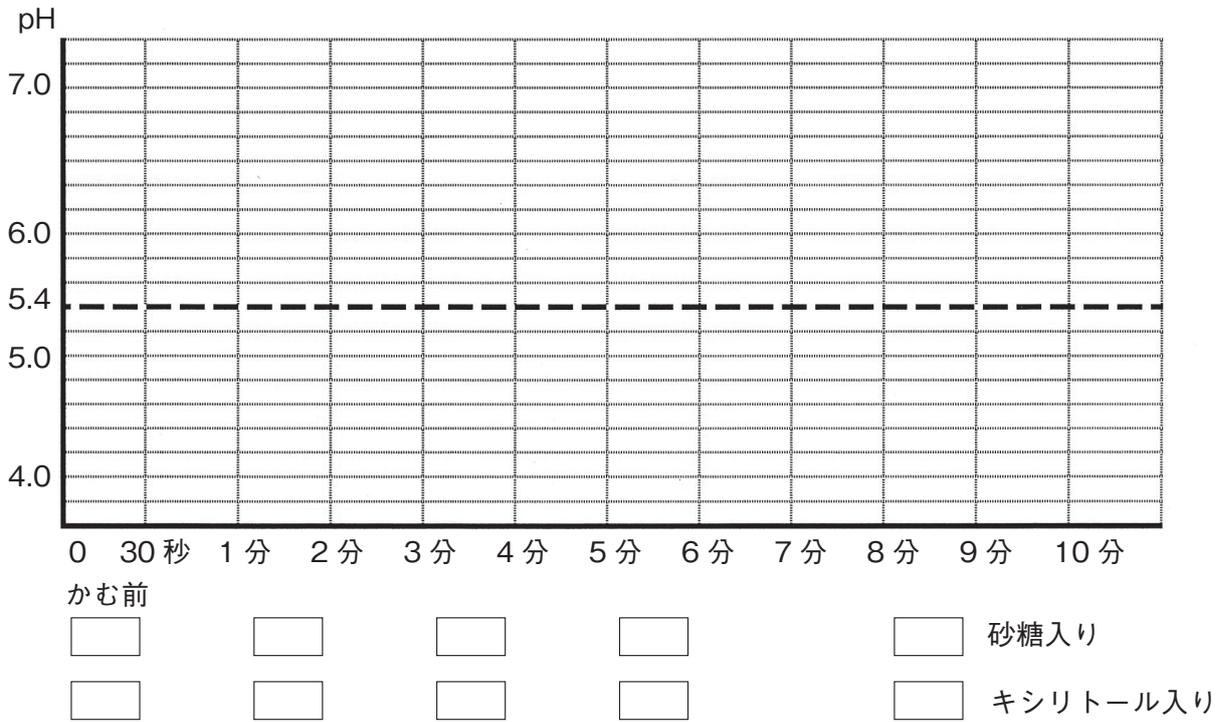
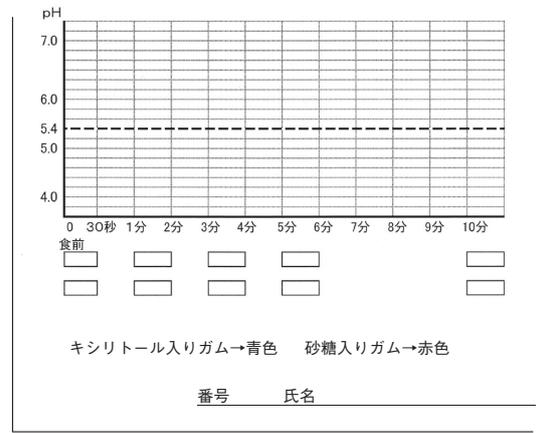


3. 本実習から何が考察できるか。

ステファンカーブ測定相互実習

年 月 日

No. Name



※ に pH 値を記入する。

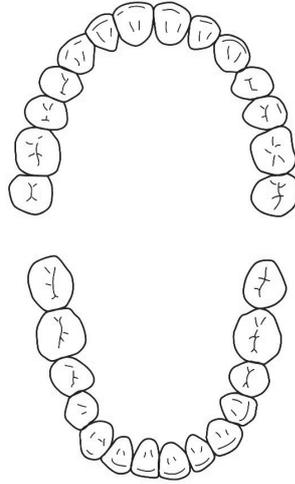
各値をプロットし、キシリトール入りガムを青色、砂糖入りガムを赤色の直線で結ぶ。

1. 本実習の目的を述べなさい。

2. 本実習から何が考察できるか。

チェック1 口腔内観察

- (1) 鏡で自分の口腔内を観察し、萌出している歯を黒枠で囲む。
- (2) 未処置齲蝕を赤色、処置歯を青色で塗りつぶす。
- (3) 該当する項目の数字に○を付ける。



1

未処置齲蝕
2 歯以上

2

未処置齲蝕
1 歯

3

齲蝕はないが
処置歯がある

4

未処置齲蝕も
処置歯もない

チェック2 齲蝕活動性試験 (RDテスト®)

*さまざまな齲蝕活動性試験があるがこの実習では、短時間でできるRDテスト®を用いる。

- (1) RDテスト®を実施する。実施後、該当する判定結果の数字に○をつける。

1

赤
High (H)

2

紫
Middle (M)

3

青
Low (L)

チェック 3 安静時の唾液流出量測定

(1) 5分間、流出した唾液を紙コップに採取する。

(2) 5分後に唾液量 (g) を電子天秤ではかる。⇒ mL
(唾液の比重を 1.0 として mL にする)

(3) 該当する測定量の数字に○をつける。

1	2	3	4
0.9mL 以下	1.0 ~ 2.0mL	2.1 ~ 3.0mL	3.1mL 以上

(測定後の唾液が入った紙コップの処理は、ティシュペーパー 1 枚を含ませてコップとともに廃棄する)

チェック 4 1日に口にした食べ物の摂取回数のチェック

(1) 前日 1 日に食べたものをすべて思い出し、枠に色タックシールを貼る。

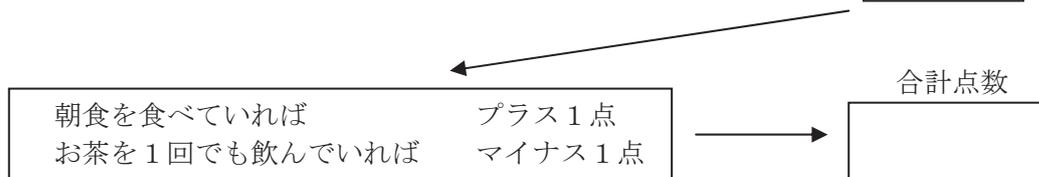
前日口にした食べ物の摂取回数チェック

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24 (時)
<input type="text"/>																		

食事：(黄) 間食(おやつ)：(赤) 糖分が含まれた飲料水：(緑) お茶：(白) 歯磨き：(青)

(2) 朝・昼・晩の食事以外の間食と、糖分が含まれた飲料水の合計を数える。

おやつ (赤の数) + 糖分が含まれた飲料水 (緑の数) =



(3) 該当する点数の数字に○をつける。

1	2	3	4
4点以上	3点	2点	1点以下

チェック5 間食（おやつ）内容のチェック

(1) 「市販菓子の齲蝕をつくる能力別による分類表」から、この1週間でよく食べたおやつを3つまで選んで○で囲む。表に記載されていない食品は、食品例を参考に砂糖の量を考えて、追加欄に記入する。

「市販菓子の齲蝕をつくる能力別による分類表」

齲蝕をつくる能力	使用されている砂糖の量 (単糖二糖類の含有%)	咀嚼時間	食品例	追加食品
A 特に低い	特に低い (5%以下)	—	チーズ ピーナツ クラッカー スナック菓子 シュガーレスガム	
B 低い	低い (5-10%)	短	バニラアイス 甘栗 砂糖無使用ビスケット せんべい	
C やや高い	中 (15-30%)	中	かりん糖 あわおこし レーズンサンド ウエハース コーンフロスト	
		中	マドレーヌ フルーツケーキ スポンジケーキ	
D 高い	中 高 (30%以上)	長	ビスケット クッキープレッツェル	
		中	チョコレート こんぺいとう	
		長	和菓子 カステラ ビスケット加工品	
E 特に高い	高	特に長い	ドロップ ヌガー 砂糖入りガム トフィー キャラメル	

※市販菓子のむし歯をつくる能力別による分類表（松久保隆，1980.）を改変

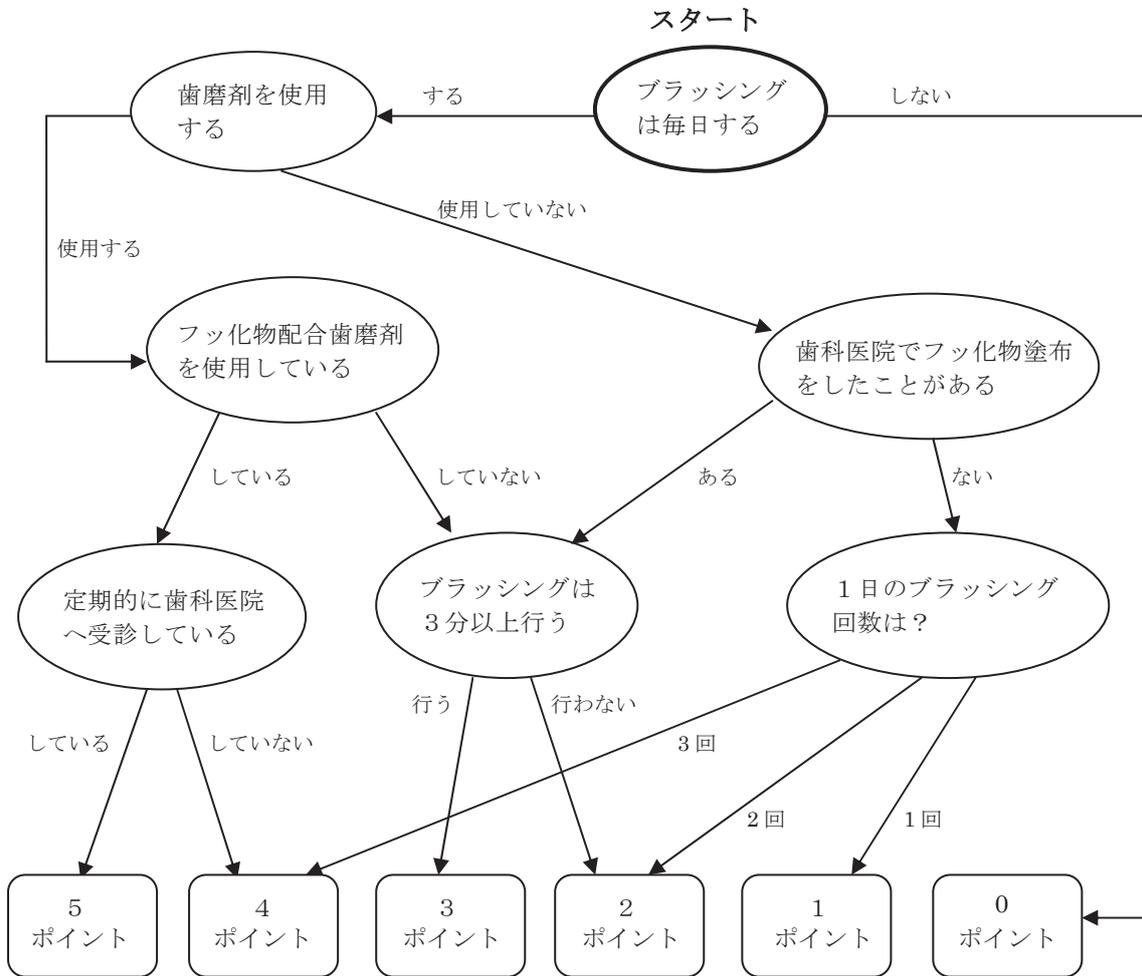
(2) ○で囲んだ食品のなかで表の一番下にある菓子の「齲蝕をつくる能力」の数字に○を付ける。

1	2	3	4	5
E	D	C	B	A

チェック 6 ブラッシング習慣のチェック

(1)「ブラッシングチェック表」で、自分のブラッシングについて調べる。

「ブラッシングチェック表」



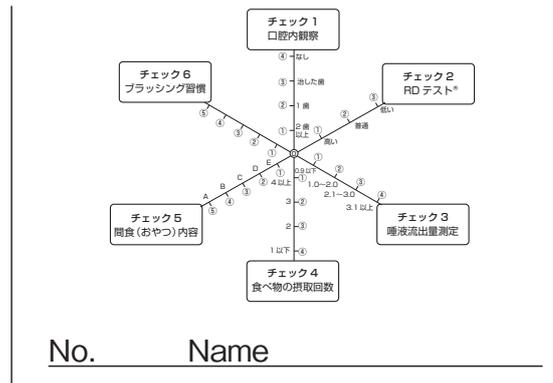
(2) 結果のポイントに該当する数字に○をつける。

0 0ポイント	1 1ポイント	2 2ポイント
3 3ポイント	4 4ポイント	5 5ポイント

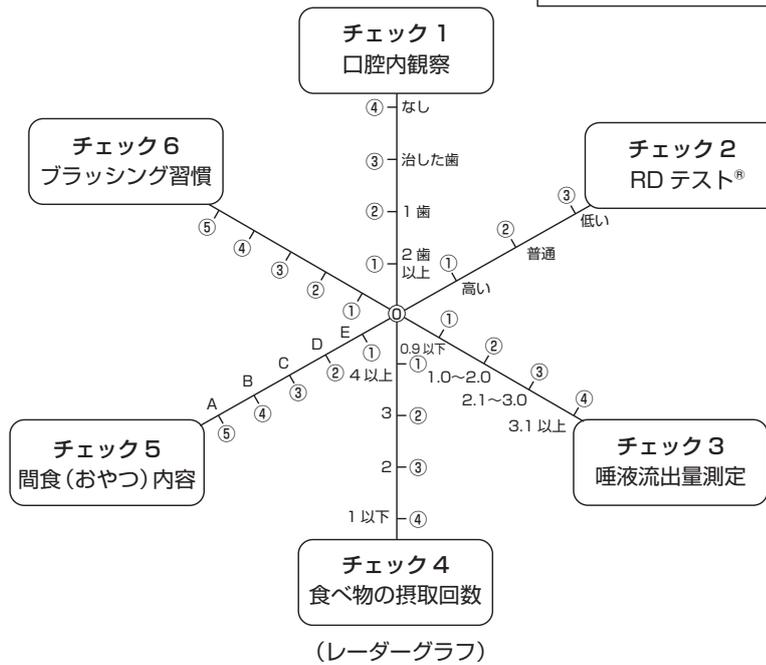
歯の健康度テスト実習

_____年 _____月 _____日

No. _____ Name _____



No. _____ Name _____



〈考 察〉

1. 本実習の目的を述べなさい。
2. 本実習の結果を述べなさい。
3. この患者（本人）に対してどのように指導するか述べなさい。

〈感 想〉